

既に、教育及び青少年健全育成に関わる多くの専門家から指摘されています。凶悪化した少年犯罪、根絶しないいじめ問題、我が子を可愛いと思えない親の幼児虐待、自己肯定感の低い子の急増、子どもの歩行数の激減、体力及び視力の低下、低年齢化した生活習慣病、言葉によるコミュニケーション能力の低下、増えつつある「キレる子」と「落ち着かない子」……。

さらに、このような社会問題化している面だけではなく、次のような日常生活のちょっとした場面でも子どもの変化を感じ、子どもの瞳の奥にひそむ大人不信の冷やかな光に、ハッとさせられることがあります。

○危険な行為や人の心を傷つける言動を注意されても、ずっと同じ行為を繰り返したり、ふてくされたり、その場から逃げようとしたり、また、「はあ？ 何で？ 何で自分だけ注意されるわけ？ 意味わかんねえし。」と不満をあらわにしたりする。

○自分の失敗や非を頑なに認めず、相手を一方的に攻撃し続ける。

○人の身体的な特徴や口癖などをあつからかんと口にし、「人が嫌がることは言っはいいけないよ。」と注意されても納得せず、「何で言っちゃあいいけないの？ 本当のことなのに……。」と

言い張る。

○褒められても、不機嫌な表情で「別に……」「はあ？ それがどうした？ 悪い？」と、つつけんどんな受け答えをする。「賞賛を拒むのは、もっと褒められたいという下心があるからだ。」という警句があるが、そのような下心よりも、大人との関わりそのものを拒絶している感がある。

○ボールゲームをしているとき、「ナイスプレー！」と、スポーツ選手のハイタッチのように肩を叩かれたのに、喜びや称賛を伝え合う行為と受け取れず、「どうして叩くの？」と本気で怒り、強く叩き返す。

○自分から挨拶できず、挨拶を促されても、なかなか挨拶を返さない。挨拶をしないですれ違う子の表情に、照れや怪訝さだけでなく、大人を小馬鹿にしたような薄笑いが浮かんでいることがある。

いずれの事例も、「些細なこと、今の子も昔の子も同じ。気にし過ぎる。」と受け止め、むしろ、その場にいる大人の指導性を問い、大人に原因と責任を求めめる方がいます。親子の関係においては、なかなか見えにくい微妙な変化です

ので、そう受け止める親御さんが多いのかも知れません。しかし、学校や保育園、

児童館などで大勢の子どもを継続的に見守り、その時その場で、おびただしい心のエネルギーを費やして、粘り強く対応している多くの教師や保育士、厚生員は、このような事例が示唆している「心の育ち」の問題を、現代っ子の大きな成長上の課題と考えているのではないのでしょうか。なぜなら、幼いころから、日常的な人との交わりを通して、体験的に身に付けないければならない集団生活のルール及び対人関係のマナーを、児童・生徒に言葉で言い聞かせて、納得させることの大変さと難しさは、とても20数年前の比ではないからです。



今、子どもに起こっているこのような問題の原因も背景も、そして、対策も、大人はすべて承知しているのではないのでしょうか。ただ、それらに立ち向かわないだけで済む。立ち向かわない理由？ それも大人は承知しているはず……。

**「たてしな保育園」
内覧会のご案内**

教育委員会
子育て教育係

大勢の皆さんお気軽にお出掛けください。

期 日 平成25年3月2日(土)午前9時から午後4時まで
3月3日(日)午前9時から午後4時まで

※駐車場は小学校入口の園舎駐車場をご利用ください。

相談時間等 月・水・金曜日

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の教頭先生へご連絡をお願いします。